

深井隆 (ふかい・たかし) 先生に

おたより しつもん?

舞踊家です。最近身体の動きのみでは伝えきれない、表現として丸くならない気持ちをかかえています。具象?の世界、手にとってみられる、触れられる、時間が経つと風合いの変化する、もの造りの世界へ飛び込もうかと思案してみたり…
”イス”に出会えた時、何を思いましたか?

イスに出会えた時、最初は特に意識しませんでした。少し面白いかもしれないといった程度。作り続けても、面白さは継続して、今までできてしまった。(深井先生)

高校三年からデッサンを始められたと知り、とても驚きました。絵が好きで時々描いていますが、独学で、いつか専門の機関で学んでみたいです。何歳でも遅くはないでしょうか?(三十代です。)

誰かに習う、ことは良いことかもしれませんが。テクニックを学ぶことは良いことかもしれませんが。上手くなる?ことは良いことかもしれませんが。でも大切なのは、デッサンは人に見せるために描くのではないと考えています。私にとってデッサンは、頭の中にあるもやもやしているものをカタチにしてみる、紙の上に現して確認することだから、自由に、で良いと思います。(深井先生)

月の庭のお馬さん、うっかり泥田にはまりこんでしまい、進むも退くもままならず、どうしたものかと途方に暮れているように見えてしまいました。今の自分の姿を見てしまったのかなあ…(弘さん)

土台はなぜ木を使っているのでしょうか?
(吉野立暉さん)

木に乗せるのがよいと思ったからです。
(深井先生)

なんでそんなに作るのが好きなんですか?
くふうしているさくひんがいっぱいあってすごいですね。(りえこさん)

1つつくると、またつぎのをづくりたくなります。もっとよいものがづくりたくなるのです(深井先生)

美しい風景のようなイメージが伝わってきました。しかし、なぜ馬と月が作品に出てきたのかわからなかったのが質問してみたくなりました。なにかの経験からなのか、抽象的なイメージなのか、物語のようなものがあるのか…(Oさん)

月と馬の組合せについて。
馬は生き物の代表として制作しています。人間のカタチを使ったほうが伝わりやすいとも思うのですが、そうすると、性別や年齢やその他いろいろな要素で意味付けをしてしまうような気がします。生き物と世界の有り様、その空間です。
(深井先生)

耳を澄ますと馬の音がしてきます。鳥の声とともに幻想的な空間を体験できました。

小さい作品も存在感がすごいです。井上邸での展示がとても素晴らしかったです。

先日母があの世界へ旅立ちました。心が洗われました。すばらしい作品に触れて今日は来てよかった。本当によかった。

どんなことを考えながら（祈りながら）作品を作られていたのでしょうか？（深い考えが作品から自然と感じられるのですが。）祈るということの大切さを改めて感じています。窓をたたき風の音を聞きつつ、頂に立つ（座す）人物に意識を集中しつつ考えます。

私が作品を作るのは
人間とはどうゆう存在なのかを知ることであり
世界とはどうゆうものなのかを知ることである。
作品を作ることで、それらの答えを確かめている。
未だに答えは見つからない、見つかっていないので、
作り続けている。
できれば私の彫刻を見ることで
生きる元気、生きる意義、生きる希望を感じていただ
けたらこんなに嬉しいことはありません。（深井先生）

椅子への集中。剣持勇を思い出しました。

今日は娘と一緒に来ました。素敵な時間をありがとうございます。
（みやたにさん 《山の上の人Ⅲ》のイラストを描いてくださいました）